

日本の食料自給率はどうなっているの？

・食料自給率とは・・・

食料自給率とは、国内の食料消費が、国内の農業生産でどの程度賄えているかを示す指標のことです。昭和40年度は73%もあった自給率も今は大きく低下し、平成22年度の結果は先進国の中でも最低の水準となる39%となっています。

自給率の変化

・昭和40年度 当時

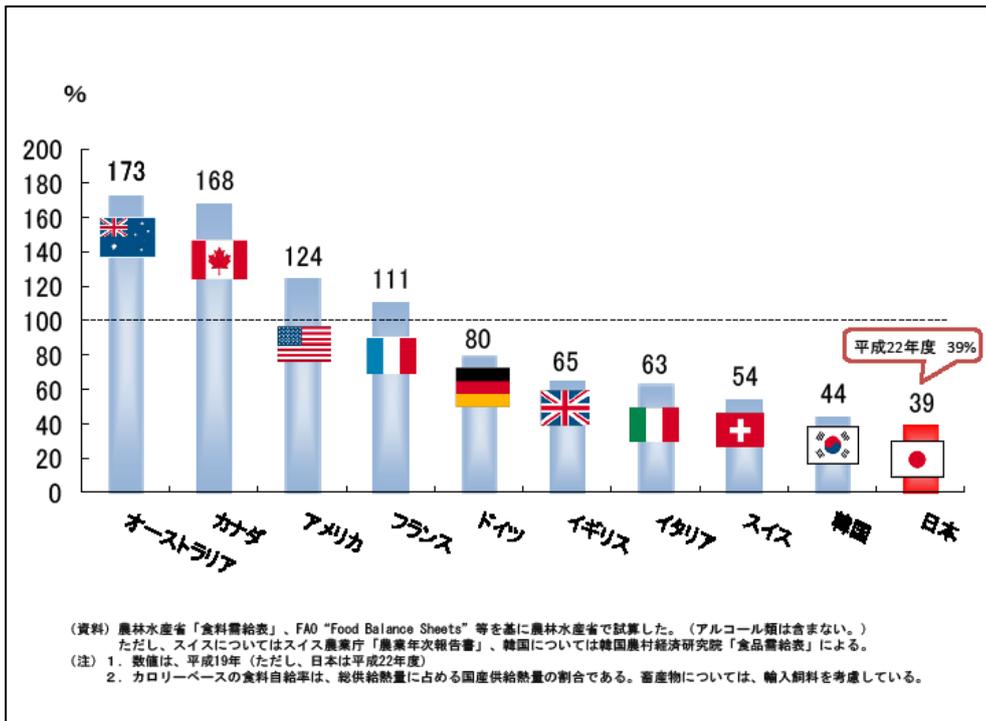
73%

・昭和55年度 当時

53%

・平成22年度

39%



どうして日本の食料自給率は下がったのでしょうか・・・

戦後、日本の食生活は大きく変化し、食の洋風化がすすんできました。

①主食がお米だけではなくなった。

(パン食の普及や麺料理もバラエティに。戦後の学校給食再開もララ物資によるパンと脱脂粉乳でした。)

→お米の消費が減りました。(昭和40年度1日に一人平均お茶わん5杯→平成22年度1日3杯)

②おかずもバラエティに。

(経済が豊かになり、おかずも自給率の低い畜産物(肉、乳製品、卵など)や油脂の消費が増えました。)

→たんぱく源となる肉や卵などが外国からの輸入飼料にたよって生産されるように。

③外食産業・中食の普及。

→外国からの食材輸入が盛んに。価格競争では国内産が不利になることも。

④農業政策の影響。(生産者の高齢化・後継者不足、減反政策による米の生産力低下)

→お米をつくる人や土地が減ってしまいました。(その分増えたのは小麦の輸入量)